

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所全体で、これまでの実践の中から学んだことを踏まえさらに研修・勉強会を重ね職員一人ひとりのスキルアップを図り「本人本位・利用者中心」の理念に基づいた支援に努めている。	ホーム独自の理念が作られており、玄関や各ユニットに掲げられている。運営主体の「職員理念」も作られている。新入職員には施設長が新人教育を行い、その課程の中に理念について説明する機会を設けている。理念に外れた行動を見かけた時には、職員間で話し合いを持ち、理念の再確認をし実践することを促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する小学校との継続した交流会や地域にある中学校の職場体験の受入れ・地域の運動会へ招待して頂いたり、祭りに作品を出展したりと地域の一員として交流している。また今年度は職員が地域福祉活動策定委員として地域の活動に参加し地域の方との交流の場を増やすことが出来た。	隣組に加入し区費も支払い、地区の「ゆうわ祭」に入居者有志の書や各ユニットで制作したちぎり絵などの出品もしている。継続して年に3回ほど同じ小学生の訪問があり、小学校の「交流委員会」の児童たちもホームで入居者と交流している。入居者が玄関まで見送りに出るほど子供たちの訪問は楽しみの一つになっている。「あさかわ夏祭り」がホームで開催され、近隣住民や運営推進委員の方が参加されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域福祉活動への参加を通し、他地区の活動として「認知症への理解」という題で施設長が話をさせていただいた。又来訪時相談にのったりアドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会への参加依頼を行い出来る限り参加してもらっている。会議にて事業所の実情やサービスの取り組みを伝え必要に応じアドバイスして頂き、日常のケアに活かしている。今年度はボランティアで来て頂いている傾聴の方にも参加して頂いている。地域のまちの縁側として看板を頂いた。	年に6回開催されている。ホームのある地区と隣の地区よりの民生委員などの参加があり全体的にメンバーが多い。入居者の現況やサービス提供の状況などを報告し、委員の方々からの意見や提案、情報なども頂いている。明瞭な議事録が作成されており、ホームでの入居者の状態などがよくわかる。今後、ご家族に会議録を見ていただくことも検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会への参加依頼を行い出来る限り参加してもらっている。会議にて事業所の実情やサービスの取り組みを伝え必要に応じアドバイスして頂き、日常のケアに活かしている。安心相談員の訪問は毎月あり協力関係が築けている。	開設当初より市派遣の「介護あんしん相談員」の受け入れをしている。当初より同じ方なのでミニ旅行などへの参加もして頂いている。外部評価の結果の報告もしている。介護認定更新時には職員が立ち会い情報の提供をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング時を利用し身体拘束についての勉強会を行い職員は理解しており日常的に身体拘束を行うようなケアはしておらず利用者は思い思いに過ごされている。	玄関の鍵は掛けていない。また出入りのチャイムの設置もしていない。新人教育時「身体拘束について」の研修も組まれており、ホームでは身体拘束は一切しないことを話している。外出したいという入居者には「どこまで行きますか」と聞き一緒に出かけ、入居者が疲れた様子を見せたら帰ってくる。生活の流れを入居者中心に考え職員が合わせている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についても同様にミーティング時に勉強会を行っている。日常のケアの中でも職員間で気になる行為や言動には注意しあったりして防止に努めている。		

グループホームあさかわ・てっせんユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修等で学ぶ機会を持ちミーティング時を利用し職員に周知している。現在まで必要のある利用者はいないが、必要時関係者と話し合い支援できる体制づくりは、出来ている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等には、書面を使用し説明を行っている。不安や疑問には丁寧に対応し理解や納得をさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に交代でご家族にも参加して頂き、要望等があればミーティング等で話し合い運営に反映させている。またホームのイベント時には必ず声をかけさせて頂き、参加して頂く中で意見等があれば気軽に言っていたくようにしている。	夏祭りやミニ旅行等行事の時に家族に声を掛け参加していただいている。家族同士の話し合いや職員と家族の話し合いが行事を通じて行われている。遠方の方には電話でコミュニケーションをとっている。入居者からの要望や苦情等を受けた時には職員のミーティングで話し合い、解決策を検討し、サービスや運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月2回のミーティング時に全員参加(不参加時は必ず記録を見ることとしている)して話し合いを持っている。	一ヶ月に2回ホーム全体の会議が行われ、その後ユニット毎のミーティングをしている。ユニットのミーティングでは介護全般の具体的な質問や疑問を上げ、開設当初よりの職員と新規採用の職員とが解決方法や改善方法について共に話し合っている。施設長や管理者からの助言なども参考にしている。年2回人事考課を兼ね代表者との面談が行われ、アイデアや提案などをする機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、日常的に管理者や職員の顔が見える位置におり現場での職員の個々の努力や実績・勤務状態を把握し職場環境及び条件等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、日常的に現場での職員個々の実際と力量を把握できる状況にあり経験年数や力量等を施設長及び管理者と相談し、事業所内外の研修を受ける機会の確保をし、職員一人ひとりのスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワーク会議への参加をし勉強会や同業者との情報交換や意見交換をしている。相互訪問等については、今年度も各ホーム共に人員の問題もあり実現にいたっていないのが現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅への訪問や、ホームへの来所を通し直接本人と会い不安なこと、困っていること等を聴く機会を作り受け止めよう努めているが、今回遠方の入院先から直接入居となってしまうケースもあり、本人の安心を確保するための関係づくりが大変だったこと		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅への訪問やホームへの来所時に困っている状況、不安なこと、求めていることの相談に丁寧にのることで、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の実情や本人の意向を聞き、又ケアマネージャー等からも十分な情報を得るなどをし、見極めを行い他のサービス利用にての対応も考慮に入れた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でコミュニケーションを図りながら本人が出来る事や可能性のあることを把握して声掛け等行うよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時に家族に様子を伝えながらコミュニケーションを図り、ホームの行事には参加して頂くよう声掛けを行っている。又可能な限り冠婚葬祭には利用者も出席して頂けるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の来所時には気兼ねなく話が出来るよう場所の提供や湯茶等にての持て成しもしている。	年末に帰宅しお正月を自宅で迎えホームに帰ってくる方や遠く離れている娘さんが長野に来て一緒に外泊するなど、個々の対応を支援している。昔からの行きつけの美容院の利用時に職員が送り迎えをし馴染みの関係を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活においてお茶・食事作り・洗濯干し等職員と一緒に関わりながら利用者同士も関わりを持ち支え合えるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在まで該当者がいなかった為支援の実績はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用して、日々の利用者の想いを職員が聞き取ったりしてミーティング時を利用し話し合いを持ち利用者の想いを柔軟に対応できるように努めている。	入居者の生活歴などを詳細に把握している。入居者自身意思を表せない方もいるが、表情や行動等で判断している。新しく入居された方で朝食は取っていなかったとか、コンビニでの買い物に一人で行き自由に買い物をしたい等の要望について職員間で話し合いを持ち、入居者の希望を取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活を把握し押し付ける事のないよう職員同士で得た情報の交換をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の利用者の心身の状態を把握し強制する事なく思い思いの一日を過ごして頂くよう努めている。有する力のある方は近くのコンビニまで一人で出掛けたり必要時は同行もさせてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の状況を把握し本人がより良い暮らしの継続が出来るための課題や支援のありかたについて月2回の会議を利用し話し合いを持っている。	入居時に本人や家族の希望などを聞き、職員間で話し合い計画を作成している。ユニット毎の職員で意見を出し合い3ヶ月に1回の見直しをしている。状態に変化がある時には随時計画を変更しており、職員には連絡帳にプランが変更になったことを記入し、知らせている。	職員はカンファレンスで入居者の現状を把握しているが、作成された「ケアプラン」を聞くだけでなく、個々のケアプランを実際に目で確かめ、内容の共有化を図ることを望みます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状況を把握し本人がより良い暮らしの継続が出来るための課題や支援のありかたについて月2回の会議を利用し話し合いを持っている。介護支援経過記録や連絡ノートを活用し職員間で情報の共有をしている。またカンファレンスを行いケアプランへ反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に合ったニーズに対応できるよう柔軟性のあるサービスに努めている。又定期受診は基本家族に対応してもらっているが、都合の悪い場合は職員が対応している。		

グループホームあさかわ・てっせんユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美容室・スーパー・コンビニ・病院・隣接している小学校との交流など地域の理解を得ながら暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を持ち、適切な医療が受けられるよう支援している。受診時には、日々の利用者の様子を連絡ノートを利用し伝えることで医療機関との連携は取れている。又利用者の状況に応じて本人家族と相談して専門医への受診を勧めるなどの支援も出ている。	入居前のかかりつけ医にホーム入居後も往診が可能かどうか確認をしている。ホームの協力医による予防接種を全員で行っている。入居者のかかりつけ医への受診については家族の付き添いを基本としている。また、受診の際には連絡ノートを活用し医師への的確な情報提供をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は看護師に日々の利用者の状況を伝え必要に応じ指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	今年度は今現在までで入院された利用者はいなかったが、そうした場合に備えての体制は出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	意思確認可能な利用者については、普段の会話の中でさりげなく話を聞いたり、家族にも意向を聞き十分な話し合いを行い、可能な限り本人の意向に添った終末期を迎えることができるよう努めている。	契約時の重要事項で説明をしている。入居者の体調の変化の都度、家族、医師、職員との話し合いを持ち、今後の方針を決めている。初めは延命措置をしないとした家族もその場になると変わることもあり、話し合いは何度も行われる。今年になり2名の方の看取りを行なった。他の入居者も職員とともに見送った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時に起こりうる急変や事故を想定し看護師による勉強会を行ない実践力を身につけられるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間を通して災害時、利用者を安全・迅速に避難誘導出来るよう、全職員参加のもと、通報訓練・避難訓練・職員の連絡訓練・消火訓練(年2回は消防署に立ち会い依頼)を行っている。	年2回防災避難訓練が行われている。各居室、リビングルーム等にスプリンクラーが設置され、防災関係の機器も整備されている。各居室の入口には絵と文字で表示されたカードが掛けられており、避難時に入居者の首に下げ利用できるようになっている。職員の役割分担については常に読み合わせ確認を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常時「一人のひと」としての対応を心掛けている。適切でない言葉かけや対応が見られた時はその都度注意をしたりミーティング時に職員同士改善していくよう話し合いをしている。	同姓の方がいることもあり、個々に苗字や名前にさん付けで敬意を持って接している。理念にも「その人らしさ(経験・個性・想いを尊重し……)」と謳われており、それに基づき職員は行動している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わりの中で自己選択できるよう選択肢の範囲を考慮したり、無理強いする事のないよう自己決定の尊重を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先するのではなく外食やドライブ等においても希望者を対象としている。食事やお茶も本人の希望があればその場所で摂ってもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出可能な利用者とは一緒に買い物に行き自ら洋服を選んだり、必要時は何点か用意した中から選んでもらうよう支援している。美容室へも、自ら申し出ることが困難な利用者には、声掛けにて同行している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食無理のない範囲で食事作りや片づけ等を職員と一緒にしている。メニューも利用者の好みを考慮したり、土・日にはお好みメニューとして3品の中から選んでもらっている。	ユニット毎の献立が作られている。入居者に何が食べたいか聞いたり、季節を感じられる旬のものを取り入れ調理している。入居者には出来ることをやって頂いている。入居者と職員が隣町まで野沢菜を取りに行き、一緒に野沢菜漬けが行われた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量など、特に観察の必要な利用者については、記録をつけて確認を行っている。季節の野菜や果物を使用し家庭的な料理を提供したり、嚥下や咀嚼の状況に合わせた食事の形態も必要あれば行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の力に応じ声掛け・見守り・介助を行い毎食後行っている。義歯使用の方には洗浄剤の使用にて清潔の保持に努めている。		

グループホームあさかわ・てっせんユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄については個々の習慣や行動パターンを知り声掛けの工夫をして、ひつような場合は本人了解のもと同行している。日中は特にリハビリパンツの使用をさせ、布製のパンツにて対応している。	排便チェック表を作成し、基本的にトイレでの排泄を目指しているため時間等を見計らい誘導している。入居者は布パンツとリハビリパンツを使用している。夜間起きてトイレに行く入居者もいるが職員の見守りが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ水分や便通をよくする食品の摂取や散歩等運動の声掛けを行っているが、利用者の身体機能の状況もあるのでかかりつけ医と相談し便秘薬等の使用も並行して行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制は出来ているが、現在の職員の配置人数では夜間帯の入浴は難しいため行っていない。入浴回数やその日の時間帯は出来るだけ本人の希望に添えるよう支援しているが無理強いはいしない。	1週間に3回入浴している。「お風呂ですがどうしましようか」と声を掛け、入居者の意思を確認し入っていただいている。たまに入りたくないという方には無理強いしないで、また翌日同じ声がかけて入っていただくようにしている。季節の風呂などで変化をもたせ楽しんでいただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事やお茶の時間以外は一人ひとりの思うように生活して頂いている。その日の活動状況や身体状況に応じて声掛けを行い休息を取ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は利用者の病気や内服薬について用法や用量について理解し服薬の支援を行っている。また病状に変化が見られた時は家族やかかりつけ医に相談できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴の中から以前から行っていたことなどは、継続できるよう支援している。役割については、利用者一人ひとりの力に合わせて無理のないよう食事の支度・片づけ・洗濯干し等に参加してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりに合わせ日常的に外出をしている。散歩・買い物・季節によって花見やひな人形見学・ドライブ・ミニバス旅行・個別旅行など、場合により家族にも参加してもらっている。	日用品の買い出しに行く時に入居者の希望を聞き、交代で3名位の方が職員とともに出かけている。入居者自身が長い距離を歩くことが困難になり、ホームの前の道を少し歩き戻ってきて玄関脇に置かれている椅子に腰を掛け、日向ぼっこを楽しんでいる。毎年行われているミニ旅行や個別旅行も継続されており、入居者や家族、職員の楽しみとなっている。	

グループホームあさかわ・てっせんユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族や本人と相談し、本人が所持している方、職員が管理をする中で必要時希望にて本人に所持してもらっている方とそれぞれの力に応じた支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に添い自由やりとりが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に明るく暑さ寒さなど室温等の調節には配慮している。またテレビ等の音で不快を感じないようになどの配慮も行っている。庭には季節の花が咲いていたりホールにも飾られている。玄関には利用者が生けた花が飾られることもある。	玄関には招き猫の置物や、幸せを呼び込むフクロウの置物など飾られている。ユニットには職員の氏名が書かれた写真が貼られていて親しみを感じた。「ゆうわ祭」への出品作品が飾られていたり、交流する小学生からの手紙や作品も飾られている。リビングには炬燵があり「テレビを見る時にはあそこがいいの」と入居者が話してくれた。玄関ホールや玄関脇に置かれた椅子を入居者が頻繁に利用していた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関の外にイスやテーブルが置かれており天気の良い日には日向ぼっこをしながらおしゃべりや歌をうたったりしている。また共用フロアには炬燵がおかれ炬燵に入りながらテレビをみたりおしゃべりしたりと思い思いの場所で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのあるもの（家具・仏壇・使い慣れた飯碗・箸等）を持ってきてもらったり、家族の来所時に都度持ってきてもらったりして居心地の良さに活かすなど工夫できている。	自宅よりお気に入りの物や生活に必要な物を持ち込み居室作りがされている。写真や似顔絵を飾ったり、沢山の実をつけた南天の枝が飾られていたり、着替えの洋服が沢山吊るされたハンガーボードがあったりと個性的な居室になっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には、職員と一緒に作った表札があり、必要に応じてトイレ・浴室に表示をしている。居室の移動はない。食卓のテーブル席も出来る限り移動はさけ混乱なく安心して生活できるよう支援している。		